

保健面のしつけについて

—顔を洗わないF君について—

江戸川区立松江幼稚園

川野博子

毎朝、顔を洗わずに平気で幼稚園に入る子ども、手足のよこれたままの子ども、便所に入つても、手も洗わずに出てくる子どもやきたない爪をのばしたままにしている子どもが、案外多いのに、いつの私は驚かされています。

このような子どもたちの母親は、多くの場合、母親自身保健面の膜について無関心で、園児の送り迎えにきて、その子どもが鼻汁が出ていても余り気にならないようです。

こうした野放しな家庭の多いこの地域において、一体どうしたら子どもたちに、衛生的な習慣が身につけさせることが出来るでしょうか。

保健面の膜においては、何といつても、子供たちの家庭環境がよくならなかつたならば、幼稚園でどんなに骨を折つて指導しても、その効果が充分に期待されないし、又園における指導においても、画一的な指導と共に徹底した個別指導が必要になつて

きます。

そこで私の幼稚園としては、折にふれて検査をして、子どもたちの素朴な競争心を利用して、努力するとともに、特別な子供に対しては温い個別指導をするように努め一方家庭に対しては、父兄会等の場合に極力、父母の協力を依頼し、各種の調査を家庭に配布し、関心を高めると共に家庭においての実態を把握するよう努めてまいりました。

ここに、述べるF君についての保健指導記録は私自身、なにか考えさせられるものが多くあつたので、これを記すことにより皆様方のより一層の御指導をお願いする次第です。

まず保健面全般についてみると、第一表及び第一図の通りでありますて、「洗顔」や「瓜」のように一見してすぐわかるものと「歯みがき」や「手洗」のようにみわけがつきにくいものとでは、かなりのひらきがあり、このようなところにも親の保健につ

いての考え方がわかるように思われます。

それから、動態をみると、第一週は入園

前の親の「しつけ」のなごりとも考えられ、

それが二、三週とすすむにつれて子どもの自由な姿が反映するとともにその率は低下し、それが自主的な形において、その模が

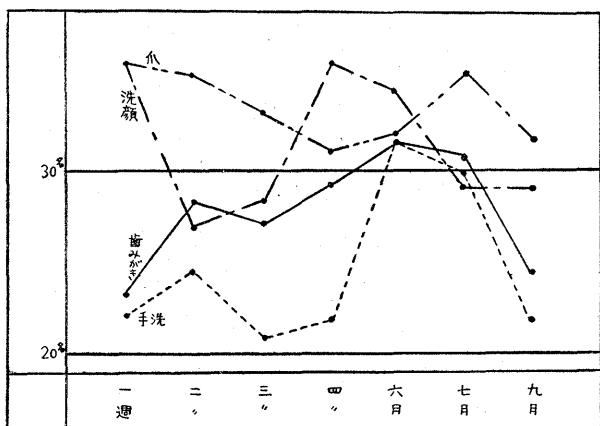
子ども自身のものとなってゆくというよう

な傾向にあるようです。

ここで面白いことは親が「しつけ」やすい「洗顔」や「爪」は月日の経つにつれて低下しているのに対して、入園当初、悪か

った「歯みがき」や「手洗」が向上してい

調査時期	項目	園における状況(教師の観察)						
		洗顔	歯磨	手洗	爪	鼻紙	ハンカチ	
入園より	1週間	36	23	22	36	38	37	42
	2ヶ月	27	28	24	25	37	37	42
(5月)	3ヶ月	28	27	21	33	27	39	39
	4ヶ月	36	29	22	31	37	42	40
6月4日～		34	32	32	32	33	34	39
7月9日～		29	31	30	35	34	35	38
9月～		29	24	22	32	24	24	39



- ⑤ 根気よく指導すること——単に先生としての義務的な指導ではなく、先生と子供との心の結びつきを考える等です。
- 子供の躰にあたっては、親や兄姉が附焼場的に、強制的にしたものはとかくそのメソッドがはげやすく、これに対して子どもがその気持ちになつて実行する時にはそれが習慣化にまでにもなつてゆくように思われます。

- 洗顔指導について、いつも考えていることを述べますと、
- ① 子供の心を傷つけないようにする
 - ② 自発的に行わせるように導く
 - ③ 喜びをともにしてやる(出来た時は私自身も喜んであげる)
 - ④ 家庭との関係を密接にして、常に貫した指導方針のもとに、幼稚園と家庭とがやっていかなければならぬい。

F君の指導にあたつても、このよう立場にたつて行つたわけで、以下その記録を

のせることにしたい。

F君の観察記録（抄）

七月十七日

朝、みんなが集まつた時ひとわたり顔をみわたしてみると、あちらこちらに顔を洗つてこない子どもが目立つ。「あら、この中に顔を洗つてくるのを忘れた人がいるんじゃないかしら」（叱るとか責めるとかいう語調にならぬよう注意しながら）といふと「あ！ そうだけない」と手を頭にやる子ども……F君はニヤニヤの部、目のところに目やにをつけたまま、こちらをみてニヤニヤしている。

自由遊びになり積木をしているF君の傍にゆき「Fちゃん今朝、顔あらったの」彼は一言も発せずニヤニヤしていたが、サッ一と逃げてしまつた。それからは私の顔をみると、なんとなく、てれたような顔をしていた。F君の気持ちを一層固いものに

月十	月九	月八	月七	F君の反応
一対一で話をする（食事の時） 「どうして顔を洗つてこないか」 金員、爪、洗顔等についてしゃべる。 生活童話（朝起きてから）を聞かせる	一、家庭に「衛生的な儀」についての調査物を配布する 一、全員に洗顔して来たか否か聞く。 一、顔を洗つていいってみた。「顔を洗うと気持ちがよいです」という	一、生活童話（おでてを洗つてから）を聞かせる。 一、全員に洗顔して来たか否か聞く。 一、顔を洗つて来たのほめ、「顔を洗うと気持ちがよいです」という	一、級全員について、洗顔して来たか否か聞く。 一、自由あそびの時そつといつて今朝、顔洗つて来たことを一緒にやろこんだ。	一、間かれた時、下を向いてニヤニヤしているのみ。 翌日、顔を洗つてくる。日ばかり続いた。
顔を洗わない理由は、幼稚園にくる迄、あそんでしでやろうとはしないようである。 別に反応なし、翌日は洗つてこない。 その次の日は、洗顔していく。	自分が洗つて来ていたために非常に嬉しかつたらしく顔を洗つて来たので自慢げに何かいつてもらおうと話しかける。 翌日も洗つてきたのほめた。	顔を洗つて来たので石鹼をつけて手を洗つていいようすがみられた。 （翌日から毎日顔を洗つてくるようになった。） 自分が洗つて来ていたために非常に嬉しかつたらしく顔を洗つて来たので自慢げに何かいつてもらおうと話しかける。 翌日は、手足をきれいにし顔もきれいであった。	翌日やはり爪をきつてこなかつた。 紙芝居をみながら手を額の周りにやってこすつていだ。昼頃、暑いためか、友達と一緒に水道の所行き顔を洗つたり髪の毛をぬらしていたりした。	「ほめられる」と嬉しからしく、その次の日も続いて洗つて来た。
		これまでに洗顔して来たのが洗みの前にいつつてたりしていった。翌日は、あらつてこなかつた。	紙芝居をみながら手を額の周りにやってこすつていだ。昼頃、暑いためか、友達と一緒に水道の所行き顔を洗つたり髪の毛をぬらしていたりした。	「ほめられる」と嬉しからしく、その次の日も続いて洗つて来た。

し、或はひょっとして傷つけはしなかった
かしら。

七月十八日

昨日あんなこといつたが今日はどうかし
ら、私の不安はつのる許りであつたが、F
君が元気な声で私にとびついてきた。

ほつとした。顔をみると、いつになくき
れい。「今日はずい分きれいね——」顔を
洗うと、きもちがよいでしょう」彼は無言
であるが嬉しそうな表情を示していた。

通りがかつたM子ちゃんに「どうF君の
顔きれいでしょう。鼻の下も」「ほんとね
——鼻もでていないわ」Mちゃんにいわれ
ると、なおうれしそうであった。明日も明
後日もつづいてくれるように……。

九月一日

日やけした元気な顔が笑つていて。F君
は、はずんだ声で「お早うございます」顔
は、目やにでいっぱいだ。一日めからい
のは可愛そだ。何もいうまい。
でも明日からはどうしたらしいかしら。

九月五日 生活童話をきかせる。
「先生バイキンてほんとうにいるの」「そ
うよ、ほんとうにいるわよ」

いつも発表の時、活躍するF君もこうい
う話になると一切口をつぐんでいる。

それから自由遊びの時に砂場で遊んでい
たが部屋に入る時、しきりに手を気にし
て、いつも使つたことのない石けんをもち
だして手を洗つてゐようす。

九月七日 製作に夢中になつていて、鼻

がでているのにきずかないらしい。そばに
いたA子ちゃんに「Fちゃん鼻がでている
わよ。きたないなあ——」といわれ、しぶ
しぶ顔をあげる。あちこちポケットをさが
していたが、なかなかみつからないらし
い。「鼻紙持つていないの」「うん」「先生、
うん! そうだ

九月十日

「先生! 僕の顔みてーらん」まあ! 洗
えおいてもらつたらどうかしら? 「うん
!」「じゃ、今度から、僕のとれるところ
へおいてもらつたらどうかしら?」「うん
!」「うん! そうだ

「こんなふうにいうのは始めてだつた。
それから作業にかかり、そつときいてみ
たF君は「母ちゃんがくれないんだもん」

と不満をのべる。

九月八日
「お母さんがくれないの……困つたわね。
どう、お母さんに僕から話したら」

遊んでいたM君が「先生チリ紙ある」
F君が「あるわよ」引出しからとろうとすると、
Mちゃんにあげて頂だいね」嬉しそうにM
君にチリ紙を手渡す。